

# 授業計画（シラバス）

専門課程 美容科 1年次

広島県理容美容専門学校

関係法規・制度	1
衛生管理	
公衆衛生・環境衛生	2
感染症・衛生管理技術	3
保健	
人体の構造及び機能	4
皮膚科学	5
化粧品化学	6
文化論	7
美容技術理論	8・9
運営管理	10
美容実習	11
ヘアカラー	12
トータルビューティ	13
ベーシックカット	14
課題演習	15

課目名	関係法規・制度			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	砂田 雅志		無	
履修年次	1年全期	曜日	月	時限	1・2	単位数	1	時間数	30
学習目標	法制度の概要から、わが国の衛生行政について学ぶとともに、理容師法・美容師法の用語・規定を理解する。また、理容師・美容師について必要とされる関連法規について知識を深める。								
授業概要	社会生活における法の役割と法制度の概要を理解し、わが国の衛生行政の仕組み、理容師法・美容師法・同施行令・同施行規則等について理解し、理容業・美容業に関係する法律や制度について学習する。講義はパワーポイントとワークシートを活用する。グループ討議等を実施する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	法制度の概要①			1 社会生活における法の役割「人と社会生活、法とは何か」 2 法の形式「憲法と日本の法令体系、条約、法律、命令、自治法規」					
第2回	法制度の概要②			3 衛生法規の概要「衛生法規の意義、衛生法規の分類と生活衛生法規」 4 理容師法・美容師法と附属法令					
第3回	衛生行政の概要①			1 衛生行政の意義と歴史「行政とは何か、衛生行政の意義、我が国における衛生行政の歴史」 2 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容「衛生行政の分類、生活衛生行政」					
第4回	衛生行政の概要②			3 衛生行政を担う行政機関「一般衛生行政の仕組み、厚生労働省の役割、都道府県及び市町村の役割、保健所の役割と機構」					
第5回	理容師法・美容師法①			1 目的 2 用語の定義「理容・美容、理容師・美容師、理容所・美容所」					
第6回	理容師法・美容師法②			3 人（理容師・美容師）に関する規定「概説、養成施設の入所資格、養成施設」					
第7回	理容師法・美容師法③			3 人（理容師・美容師）に関する規定「試験、免許と登録」					
第8回	理容師法・美容師法④			3 人（理容師・美容師）に関する規定「理容師・美容師の義務」					
第9回	理容師法・美容師法⑤			3 人（理容師・美容師）に関する規定「業務停止、免許取消及び再免許、管理理容師・管理美容師」					
第10回	理容師法・美容師法⑥			4 施設（理容所・美容所）に関する規定「概説、理容所・美容所の開設」					
第11回	理容師法・美容師法⑦			4 施設（理容所・美容所）に関する規定「開設者が講ずべき衛生措置、理容所・美容所以外での業務」					
第12回	理容師法・美容師法⑧			5 立入検査と環境衛生監視員 6 違反者等に対する行政処分「違反者等に対する行政処分、不利益処分を行う場合の手続き、違法または不当な処分等についての審査請求」					
第13回	理容師法・美容師法⑨			7 罰則「罰則について、理容師法・美容師法の罰則」					
第14回	関連法規①			1 衛生に関連する法律 2 業の振興に関連する法律 3 雇用に関連する法律 4 消費者保護に関連する法律					
第15回	関係法規・制度のまとめ①			○理容師・美容師試験対策 ○参考資料の確認 1 理容師法・美容師法の構成 2 理容師法・美容師法の歴史					
教科書	関係制度・法規（日本理容美容教育センター）								
参考書	日本国憲法、理容師法・美容師法関係法令集（日本理容美容教育センター）								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	衛生管理 公衆・環境			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	中村 拓也		有 (7年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	月・水	時 限	1・2	単位数	1	時間数	30
学習目標	理容業・美容業を通して公衆衛生の維持・増進への責務の重要性を知る。 環境衛生の意義と内容を理解し、理容所・美容所における環境衛生を学ぶ。								
授業概要	公衆衛生の意義、環境衛生、特に理容業・美容業務上で必要な衛生知識などについてテキストに沿って授業を行う。講義は、パワーポイントを使用する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	公衆衛生の概要①				公衆衛生の意義と課題				
第2回	公衆衛生の概要②				公衆衛生の発展の歴史①				
第3回	公衆衛生の概要③				公衆衛生の発展の歴史②				
第4回	公衆衛生の概要④				理容師・美容師と公衆衛生①				
第5回	公衆衛生の概要⑤				保健所と理容業・美容業				
第6回	保健①				保健①				
第7回	保健②				保健②				
第8回	公衆衛生 まとめ				まとめ・質疑応答・模擬問題				
第9回	環境衛生①				環境衛生の概要①				
第10回	環境衛生②				環境衛生の概要②				
第11回	環境衛生③				空気環境				
第12回	環境衛生④				衣服・住居の衛生				
第13回	環境衛生⑤				上下水道と廃棄物				
第14回	環境衛生⑥				衛生害虫とネズミ				
第15回	環境衛生⑦ まとめ				環境保全 まとめ・質疑応答・模擬問題				
教科書	衛生管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	衛生管理 感染症・衛生管理技術			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	森澤 みゆき		有 (6年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	木・金	時 限	2	単位数	2	時間数	60
学習目標	感染症に対する正しい知識の習得、その予防方法や対策について学ぶ。 理容所・美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について学ぶ。								
授業概要	理容・美容の業務と感染症の関わりを理解させる。 消毒薬の特徴を理解させる。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	人と感染症				疫病の歴史、感染症発見の歴史				
第2回					感染症と法律				
第3回					感染症の分類				
第4回	病原微生物				微生物の種類、形、大きさ、構造				
第5回					微生物の増殖と環境の影響				
第6回	感染症の予防				微生物の病原性と人体の感受性、免疫と予防接種				
第7回					感染症発生の要因、感染症予防の三原則				
第8回	理容業・美容業と感染症				感染症の基礎知識の重要性				
第9回	主な感染症				空気・飛沫を介して感染する感染症				
第10回					飲食物を介して感染する感染症				
第11回					血液等を介して感染する感染症				
第12回					動物・節足動物を介して感染する感染症				
第13回	具体的な対策の例				予防策やその対応				
第14回	消毒とは				病原微生物と非病原微生物、消毒の原理				
第15回	消毒の意義				汚染、感染、発病、消毒、滅菌、防腐の定義				
第16回	理容・美容の業務と消毒との関係				消毒に関連のある法の規定、理・美容師の責任				
第17回	消毒法と適用上の注意				消毒法の種類、消毒に必要な条件				
第18回					消毒薬の使用や保存上の注意				
第19回	理学的消毒法（殺菌法）				紫外線、煮沸、蒸気消毒、その他の理学的消毒法				
第20回	化学的消毒法（殺菌法）				アルコール、塩素剤による消毒				
第21回					界面活性剤、グルコン酸、その他の消毒薬				
第22回	すぐれた消毒法とその実施上の注意				すぐれた消毒薬の条件、消毒を行う際の注意事項				
第23回	各種消毒薬				消毒薬の概要、器具の使い方				
第24回					消毒薬の希釈について				
第25回	理容所・美容所の消毒の実際				消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、手指の消毒				
第26回	理容所・美容所の清潔法の実際				清潔保持と清掃、消毒、衛生害虫の駆除				
第27回	衛生管理の実践例				理容所及び美容所における衛生管理要領				
第28回					目的～第4 衛生的取り扱い				
第29回					消毒～第6 自主的管理体制				
第30回					理・美容所の自主管理点検表				
教 科 書	衛生管理 （日本理容美容教育センター）								
参 考 書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	保健・人体			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	長谷山 愛		有 (15年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	月	時 限	1・2	単位数	1	時間数	30
学習目標	人体の構造、機能に関する科学的、系統的知識を理容・美容技術と関連させながら学習する。								
授業概要	人体の構造や機能について頭頸部を中心に解剖学を、人体を理解するために骨格器系、筋系、神経系、感覚器系、血液・循環器系、呼吸器系、消化器系などに分けて学習する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学				人体各部の名称				
第2回	骨格器系				骨の種類と構造				
第3回	筋系				筋の種類と特徴				
第4回	表情筋と表情運動				眼、口、鼻を中心とした筋				
第5回	神経系				神経系の成り立ち				
第6回	中枢神経とそのはたらき				脳、脊髄の構造とはたらき				
第7回	感覚器系				視覚、聴覚、味覚、嗅覚のはたらき				
第8回	平衡感覚				半規管、前庭、耳石、平衡砂のはたらき				
第9回	血液と免疫系				血液のあらまし				
第10回	循環器系				血液の循環経路				
第11回	リンパ管系の仕組みとはたらき				リンパ管系の仕組みと働き				
第12回	呼吸器系				呼吸器系のあらまし				
第13回	肺の仕組みとガス交換				肺の構造とはたらき				
第14回	消化器系				消化器系のあらまし				
第15回	消化管のはたらき				咀嚼、嚥下、胃腸の運動				
教 科 書	保健 (日本理容美容教育センター)								
参 考 書	理容・美容保健 学習指導の手引き (日本理容美容教育センター) 及びDVD鑑賞								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	保健・皮膚科学			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無					
				授業方法	講義	堀田 郁雄		有 (9年以上)					
履修年次	1年全期	曜 日	水・木	時 限	1	単位数	2	時間数	60				
学習目標	理容師・美容師の業務の特徴上、皮膚や毛髪に関する深い知識が求められることから、お客さまの頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識を学ぶ。												
授業概要	テキストの内容を別途資料などを踏まえ、分かりやすく解説して理解を深めさせることで理容師・美容師として必要な皮膚やその付属器官についての知識を習得させる。												
年 間 授 業 計 画													
回	主 題				授 業 内 容								
第1回	皮膚の構造				皮膚の表面、皮膚の断面								
第2回					表皮								
第3回					表皮と真皮の境、真皮								
第4回					皮下組織、皮膚の部位差								
第5回	皮膚付属器官の構造				毛								
第6回					脂腺（皮脂腺）、汗腺、爪								
第7回					皮膚の循環器系と神経系								
第8回	皮膚の循環器系と神経系				皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経								
第9回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能				対外保護作用								
第10回					体温調節作用、知覚作用と皮膚反射								
第11回					分泌排泄作用								
第12回					呼吸作用、吸収作用、貯蔵作用								
第13回					免疫・解毒・排除作用、再生作用								
第14回					毛のはたらき、爪のはたらき								
第15回	期末試験の解説				期末試験の問題解説と確認								
第16回	皮膚と皮膚付属器官の保健				皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養								
第17回					皮膚とし好品、皮膚と体内病変								
第18回					皮膚の水分と脂の状態								
第19回					皮膚付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ								
第20回					毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ、子どものおしゃれによる皮膚トラブル								
第21回	皮膚と皮膚付属器官の疾患				皮膚の異常と病態、								
第22回					皮膚炎・湿疹・蕁麻疹・薬疹								
第23回					口唇の疾患								
第24回					温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患								
					色素異常による皮膚疾患、血管腫（アカアザ）								
第25回					脂腺母斑、下肢動脈瘤								
					分泌異常による皮膚疾患								
第26回					化膿菌による皮膚疾患、ウイルスによる皮膚疾患								
第27回					真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患								
第28回					感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患								
第29回					皮膚の腫瘍								
第30回					期末試験の解説				期末試験の問題解説と確認				
教科書					保健（日本理容美容教育センター）								
参考書													
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。												

課 目 名	化粧品化学			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	杉村 尚子		有 (17年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	水・木	時 限	1	単位数	2	時間数	60
学習目標	化粧品に用いられている原料の化学性質や配合目的などについて学び、各種化粧品の有用性、安全性、使用目的についての知識を深める。								
授業概要	化粧品概論、化粧品原料、基礎化粧品、メイクアップ化粧品、頭皮・毛髪用化粧品、芳香製品と特殊化粧品の項目に分け解説。業務上使用する化粧品だけではなく、一般の化粧品に表示されている配合成分の性質や配合などについて学ぶ。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	第1編 化粧品総論 1章 化粧品総論				1節 化粧品とは				
					2節 化粧品と造形				
第2回	2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと				3節 化粧品の効果と使用プロセス				
第3回					1節 化粧品の使用によるトラブル				
第4回					2節 化粧品の定義と法則性				
第5回	3章 化粧品の成り立ち				3節 化粧品の安全性と安定性				
第6回					1節 化粧品の成り立ち				
第7回					2節 水と親水性溶媒				
第8回					3節 油性原料				
第9回					4節 界面活性剤				
第10回					5節 高分子化合物				
第11回					6節 色材				
第12回					7節 香料				
第13回					8節 製品を安定させる配合原料				
第14回					9節 その他の機能性配合原料				
第15回					10節 雑貨原料				
第16回					※前期期末試験の解説				
第17回	第2編 化粧品各論 1章 スキンケア製品				1節 化粧品の効果と使用プロセス				
第18回					2節 クレンジング用化粧品				
第19回					3節 コンディショニング用化粧品				
第20回	2章 メイクアップ製品				4節 トリートメント用化粧品				
第21回					1節 メイクアップ製品の種類と剤形				
第22回					2節 ベースメイクアップ化粧品				
					3節 ポイントメイクアップ化粧品				
第23回					4節 アイメイクアップ化粧品				
					5節 まつ毛ケア製品				
第24回					6節 ネイルメイクアップ製品				
第25回	7節 ネイルケア製品								
第26回	3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ 及びスカルプケア製品				1節 ヘアクレンジング用化粧品				
第27回					2節 ヘアコンディショニング用化粧品				
第28回					3節 ヘアスタイリング料				
第29回					4節 パーマ剤				
第30回					5節 ヘアカラー製品				
第31回					6節 スカルプケア製品				
第32回	期末試験の解説				期末試験の問題解説と確認				
教科書	化粧品化学 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課 目 名	文化論			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無					
				授業方法	講義	小家石 純子		有 (3年以上)					
履修年次	1年全期	曜 日	木・金	時 限	2	単位数	2	時間数	60				
学習目標	お客様が求める美しさを的確に理解し、お客様との間にしっかりとした意見の一致を得た上で技術の提供ができるように、ヒントや創造の幅を広げるための基本を学ぶ。												
授業概要	理容・美容の語義や現代社会との関わり、造形要素を学び、また文化史の中での理容と美容がどうかかわってきたのかを学習する。												
年 間 授 業 計 画													
回	主 題				授 業 内 容								
第1回	総論				1. 総論								
第2回	日本の理容業・美容業の歴史				1. 理容業・美容業の登場								
第3回					2. 江戸時代の理容業・美容業								
第4回					3. 近代の理容業・美容業								
第5回	ファッション文化史 日本編				4. 現代の理容業・美容業								
第6回					1. 縄文・弥生・古墳時代								
第7回					2. 古代 (飛鳥・奈良・平安時代)								
第8回					3. 中世 (平安末・鎌倉・室町・戦国時代)								
第9回					4. 近世 (戦国末・安土桃山時代)								
第10回					5. 近世 (江戸時代)								
第11回					6. 近代 (明治時代)								
第12回					7. 近代 (大正時代)								
第13回					8. 近代 (昭和20年まで)								
第14回					9. 現代 (1945年～1950年代)								
第15回					10. 現代 (1960年代～1970年代)								
第16回					11. 現代 (1980年代～1990年代)								
第17回					12. 現代 (2000年代～2010年代)								
第18回					ファッション文化史 西洋編				1. 古代エジプト				
第19回									2. 古代ギリシア・ローマ				
第20回	3. 古代ゲルマン												
第21回	4. 中世ヨーロッパ												
第22回	5. 近世 (16世紀)												
第23回	6. 近世 (17世紀)												
第24回	7. 近世 (18世紀)												
第25回	8. 近代 (18世紀末～19世紀初め)												
第26回	9. 近代 (19世紀)												
第27回	10. 現代 (1910年代～1920年代)												
第28回	11. 現代 (1930年代～1940年代前半)												
第29回	12. 現代 (1940年代後半～1950年代)												
第30回	13. 現代 (1960年代)												
第31回	14. 現代 (1970年代)												
第32回	15. 現代 (1980年代)												
第33回	16. 現代 (1990年代～2010年)												
第34回	礼装の種類				1. 和装の礼装								
第35回					2. 洋装の礼装								
教科書	文化論 (日本理容美容教育センター)												
参考書													
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。												

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課目名	美容技術理論			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	浅田 圭恵	堀田 郁雄	有 (10年以上)	有 (9年以上)
履修年次	1年全期	曜日	全	時限	1・2	単位数	5	時間数	150
学習目標	美容技術の理論を理解し、しっかりと基礎を身につけ将来役立つ技術として習得する。								
授業概要	美容師としての心構え・美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、習得する。								
年間授業計画									
回	主題			授業内容					
第1回	美容技術理論を学ぶにあたって			<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容理論と美容技術</li> <li>・作業姿勢 ・人格各部の名称</li> </ul>					
第2回									
第3回	美容用具			<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容技術における用具</li> <li>・コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン類</li> <li>・ヘアクリップ・ロット・ローラー</li> <li>・アイロン・ドライヤー</li> <li>・スチーマー</li> <li>・遠赤外線</li> </ul>					
第4回									
第5回									
第6回									
第7回									
第8回									
第9回	ヘアカッティング			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアカッティングとは</li> <li>・シザーズとレザーの扱い方</li> <li>・ヘアカッティングの正しい姿勢</li> <li>・ブロッキング</li> <li>・ベーシックカット技法</li> <li>・シザーズ、レザーによるカット技法</li> </ul>					
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回	メイクアップ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイクアップの概論 ・皮膚の生理と構造</li> <li>・フェイスプロポーション</li> <li>・色彩について</li> <li>・パーソナルカラー</li> <li>・用具の種類と消毒方法</li> <li>・メイクアップ・ブライダルメイクアップ</li> <li>・肌質別修整メイクアップ</li> <li>・まつ毛エクステンション</li> </ul>					
第16回									
第17回									
第18回									
第19回									
第20回									
第21回									
第22回									
第23回	パーマネントウェービング			<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーマネントウェービングの歴史と現在</li> <li>・パーマネントの理論</li> <li>・パーマ剤の分類</li> <li>・注意事項</li> <li>・縮毛矯正</li> </ul>					
第24回									
第25回									
第26回									
第27回									
第28回	シャンプーイング			<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャンプーイング総論</li> <li>・サイドシャンプー</li> <li>・バックシャンプー</li> <li>・スキャルプトリートメント</li> <li>・リンス、コンディショナー</li> </ul>					
第29回									
第30回									
第31回									
第32回									
第33回	ネイル			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイル技術概論・ネイル技術の種類</li> <li>・爪の構造と機能 ・爪のカット形状</li> <li>・ネイル技術と公衆衛生</li> <li>・カウンセリング ・ネイルケア</li> <li>・アーティフィシャルネイル</li> <li>・手と足のマッサージ</li> </ul>					
第34回									
第35回									
第36回									
第37回									
第38回									

第39回	エステティック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エステティック概論 ・皮膚の生理と構造</li> <li>・カウンセリング・マッサージ理論</li> <li>・フェイシャルケア技術</li> <li>・フェイシャル及びデコルテマッサージ</li> <li>・フェイシャルパック</li> <li>・ボディケア技術・ボディマッサージ</li> </ul>
第40回		
第41回		
第42回		
第43回		
第44回		
第45回	ヘアカラーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアカラーの種類 ・タイプ別特徴</li> <li>・染毛のメカニズム</li> <li>・色の基本</li> <li>・毛髪のレベルとアンダートーン・パッチテスト</li> <li>・使用時の注意事項</li> <li>・道具・技術手順</li> </ul>
第46回		
第47回		
第48回		
第49回		
第50回		
第51回	ヘアセッティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアセッティングとは</li> <li>・ヘアシェービング・カーリング</li> <li>・カーリング</li> <li>・ローラーカーリング</li> <li>・ブロードドライ</li> <li>・アイロンセッティング</li> <li>・バックコーミング</li> <li>・アップスタイル</li> <li>・ウイッグとヘアピース</li> </ul>
第52回		
第53回		
第54回		
第55回		
第56回		
第57回		
第58回		
第59回		
第60回	日本髪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本髪の由来 ・日本髪の各部の名称</li> <li>・日本髪の種類と特徴</li> <li>・日本髪と調和・装飾品・結髪道具</li> <li>・結髪技術・手入れ</li> <li>・かつら</li> </ul>
第61回		
第62回		
第63回		
第64回		
第65回	着付けの理論と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・礼装・季節・着物のいろいろ</li> <li>・帯・小物・各部の名称</li> <li>・たたみ方</li> <li>・着付けの一般的要領</li> <li>・留袖着付け技術</li> <li>・振袖着付け技術</li> <li>・男子礼装・袴着付け・花嫁（和・洋）</li> </ul>
第66回		
第67回		
第68回		
第69回		
第70回		
第71回		
第72回	ヘアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容とデザイン</li> <li>・錯覚現象を美容に生かそう</li> <li>・デザインの要素</li> <li>・デザインの原理</li> </ul>
第73回		
第74回		
第75回		
教科書	美容技術理論1・2 （日本理容美容教育センター）	
参考書		
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し評価を行う。	

課 目 名	運営管理			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	浅田 圭恵		有 (10年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	月	時 限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ。 人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ。 顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ。								
授業概要	経営者の視点と経営者の努力を理解して、自らがどのように行動すべきか、仕事がどのように創られているのかを学び考え、美容師の仕事を通じて顧客や社会に対する責任を具体的に学習する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	経営とは・経営者とは			経営が必要とされる理由 継続が難しい理由・経営が必要な理由 経営とは何か、経営資源と経営計画 経営戦略					
第2回				経営戦略が目指すもの・顧客に選ばれる店の実現					
第3回	理容業・美容業の経営について			業界の概要、競争の変化 サービスとしての理容・美容 理容業・美容業の顧客について					
第4回	資金の管理			資金管理の重要性、収支と損益 会計の考え方、コストを管理する 税金について					
第5回	人という資源			人という資源とは、人の能力を高める 人をやる気にさせるために 給与・待遇・福利厚生、労働者の権利					
第6回	従業員としての視点から			社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任 社会保険 公的年金・医療保険・労働保険 キャリアプランの重要性					
第7回				仕事をするうえで考えるべきこと					
第8回	健康・安全な職場環境の実現			健康管理の基礎 理容・美容の仕事と健康					
第9回				理容業・美容業に特徴的な健康課題 理容・美容の作業環境に関する健康問題					
第10回	サービス・デザイン			顧客が求める価値、価値の実態 顧客満足の実現のためのシステム 最も重要な価値：人					
第11回				価値の多様性、サービスの範囲					
第12回	サービス・マーケティング			理容業・美容業のマーケティング マーケティング・ミックス					
第13回				サービスのシステム化					
第14回	サービスにおける人の役割			接客についての理解、よい接客のために 接客の実践					
第15回				接客におけるトラブルと対応 接客で発生が予想される問題 問題を深刻化させないための対策・対処					
教科書	運営管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	美容実習			必修/選択	必修	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	浅田 圭恵	有 (10年以上)		
						堀田 郁雄	有 (9年以上)		
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	11	時間数	330
学習目標	「美容技術理論」に基づき、美容師に必要な基礎技術の理解と習得を目的とし、国家試験の合格、各種競技会への出場を目指していく。								
授業概要	教員による見本、映像教材等を用い、目で確認しながら基本を体得できるように繰り返し練習をおこなっていく。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回 ～ 第15回	パーマメントウェービング				ブロッキング ワインディング ワインディングのバリエーション				
第16回 ～ 第35回	ヘアカッティング				ワンレングスカット グラデーションカット レイヤーカット セიმレングスカット レザーカット				
第36回 ～ 第55回	シャンプーイング				クロス掛け、ブラッシング、サイドシャンプー バックシャンプー、トリートメント				
第56回 ～ 第70回	ヘアセッティング				ヘアカーリング ヘアウェービング ローラーカーリング ブロードライスタイリング アイロンセッティング アップスタイル				
第71回 ～ 第85回	ヘアカラーリング				酸化染毛剤 酸性染毛料 塗布技術のいろいろ				
第86回 ～ 第95回	エステティック				エステティック備品類 フェイシャル及びデコルテマッサージ 背中のマッサージ フェイシャルパックとマスク				
第96回 ～ 第105回	ネイル技術				ネイルケア アーティフィシャルネイル ネイルアート 手と足のマッサージ				
第106回 ～ 第120回	メイクアップ				スキンケア ベースメイクアップ アイメイクアップ アイブロウメイクアップ リップメイクアップ まつ毛エクステンション ブラッシュオンメイクアップ ひとりの顔から5つの表情を引き出す 特別に輝きたい日のために				
第121回 ～ 第140回	着付け技術				留袖着付け技術 振袖着付け技術 男子礼装羽織、袴着付け技術 女子袴着付け技術 打掛着付け技術 伝統的な花嫁化粧 タオル補整				
教科書	美容技術理論1・2、美容実習1・2 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	1期・2期・3期 期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	ヘアカラー			必修/選択	選択	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	浅田 圭恵 堀田 郁雄		有 (10年以上) 有 (9年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	2	時間数	60
学習目標	美容師に必要なカラー技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける。								
授業概要	ヘアカラー剤の基礎知識を把握し、カラー技術を行うことができるように学ぶ。 JHCAヘアカラリスト検定の取得を目指す。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	塗布技術のいろいろを学ぶ				パネルの引き出し・角度・スライス・ブラシ塗布				
第2回	カットウィックをブリーチする				ブリーチのテクニック				
第3回	デザインカットスタイルを作る				薬剤選定から調合・スタイルに合わせた技術				
第4回	コンテストを行い評価する				カットスタイルに合わせたデザインカラー				
第5回	JHCAカラー知識、基礎用語を学ぶ				ワンメイクとリタッチのセクショニング				
第6回	ファッションカラー				ファッションカラーのワンメイクとリタッチ				
第7回	ファッションカラー				ファッションカラーの2タッチリタッチ				
第8回	ファッションカラー				グレイヘアのヘアマニキュア				
第9回	検定内容確認				ウィッグを使用しワンメイク				
第10回	検定内容確認				ウィッグを使用しワンメイク				
教 科 書	新ヘアカラー入門 (日本ヘアカラー協会)								
参 考 書									
成績評価	期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	トータルビューティアー			必修/選択	選択	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	浅田 圭恵		有 (10年以上)	
						堀田 郁雄		有 (9年以上)	
						重森 久美子		無	
履修年次	1 年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	2	時間数	60
学習目標	美容師に必要なヘアメイク技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける。								
授業概要	基本的なアップスタイル技法を学ぶ。 クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの楽しさを知る。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	化粧品と道具の基礎知識				化粧品知識、道具の扱いと並べ方、正しい姿勢を学ぶ				
第2回	スキンケアの基礎知識				クレンジング・スキンケアの基礎知識を学ぶ				
第3回	ファンデーション・パウダーの基礎知識				ファンデーション・パウダーを相モデルで練習				
第4回	コントロールカラー・コンシーラーの基礎知識				コントロールカラーからパウダーを相モデルで練習				
第5回	アイブロウ・アイシャドーの基礎知識				アイブロウ・アイシャドーを相モデルで練習				
第6回	ポイントメイク技術の基礎知識				アイライン・マスカラ (ビューラー) ・リップ・チークを相モデルで練習				
第7回	顔分析(ゴールデンプロモーション) ・モデリングを学ぶ				ブラッシュオンメイクアップ (ハイライト、ローライト) を相モデルで練習				
第8回	ポイントメイク技術の応用				ポイントメイクのバリエーション(色・形・大きさ・などによる変化)				
第9回	相モデル作品のメイク技術				クレンジングからフルメイクを相モデルで仕上げる				
第10回	錯覚理論・特殊メイク・フェイスペイントを学ぶ				特殊メイクの作品を相モデルで仕上げる				
第11回	編み込みヘアを学ぶ				色々な編み込みをウィッグで練習				
第12回	編み込みヘアを学ぶ				編み込みを使ったアップスタイルを相モデルで仕上げる				
第13回	アップスタイル道具の基礎知識と使い方				ビンの止め方・逆毛の立て方・ブラシの入れ方ウィッグで練習				
第14回	アップスタイル道具の基礎知識と使い方				コームの入れ方・ゴムの止め方ブラシの入れ方ウィッグで練習				
第15回	一束にまとめ上げるアップスタイルを学ぶ				ポニーテールをウィッグで練習				
第16回	シニオンにまとめ上げるアップスタイルを学ぶ				すき毛の扱い方・シニオンのウィッグ練習				
第17回	シニオンにまとめ上げるアップスタイルを学ぶ				アップスタイル作品をウィッグで練習				
第18回	夜会巻きを学ぶ				1束、編み込み、夜会巻きを入れたスタイル作成				
第19回 ～ 第25回	アップスタイル技術の応用を学ぶ				デザインスタイル技術を学ぶ				
第26回 ～ 第30回	ネイル技術を学ぶ				ネイル技術を専門に学ぶ				
教 科 書									
参 考 書	ラグゼビューティアーメイクブック								
成績評価	期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	ベーシックカット			必修/選択	選択	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	浅田 圭恵	有 (10年以上)		
						堀田 郁雄	有 (9年以上)		
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	2	時間数	60
学習目標	美容師に必要なカット技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける。								
授業概要	カットの基礎知識を把握し、カット技術を行うことができるように学ぶ。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	道具の扱いと正しい姿勢を学ぶ				シザーズ・レザー・コームの扱い方、正しい姿勢				
第2回	ブロッキング・パネルの基礎を学ぶ				ブロッキング、パネルの引き出し・角度・スライス				
第3回	ワンレングスカット				ワンレングススタイル				
第4回	グラデーションカット				グラデーションスタイル				
第5回	レイヤーカット				レイヤースタイル				
第6回	セიმレングスカット				セიმレングススタイル				
第7回	デザインカット				フリースタイル				
第8回	デザインカット				フリースタイル				
第9回	デザインカット				フリースタイル				
第10回	作品の評価をする				フリースタイル				
教 科 書	美容実習1 (日本理容美容教育センター)								
参 考 書	BASIC×BASIC CUTの法則								
成績評価	期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

令和7年度 美容科 シラバス

広島県理容美容専門学校

課 目 名	美容 課題演習			必修/選択	選択	担当者		美容師実務経験の有無	
				授業方法	演習	浅田 圭恵	有 (10年以上)		
						堀田 郁雄	有 (9年以上)		
履修年次	1年全期	曜 日	全	時 限	3・4	単位数	1	時間数	30
学習目標	国家試験合格レベルを目標にし、評価基準に適合した能力別の指導の推進する。								
授業概要	各科目において、繰り返し学習することで理解を深め上達を計る。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	接客			接客シュミレーション					
第2回									
第3回									
第4回									
第5回	ワインディング			国家試験課題 習得					
第6回									
第7回									
第8回									
第9回									
第10回									
第11回	オールウェーブセッティング			ウェーブ、リッジの習得					
第12回									
第13回	オールウェーブセッティング			7段ウェーブの習得					
第14回				ウェーブ、リッジ					
第15回	オールウェーブセッティング			1, 7段目のカールの習得					
第16回				スカルプチャカール、クロッキノールカール					
第17回	オールウェーブセッティング			ウェーブ、リッジ、カールの構成習得					
第18回									
第19回	カッティング			国家試験課題 (レイヤーカット) の習得					
第20回									
教科書									
参考書									
成績評価	期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								